

「農林業イノベーションによる地域活性化」に関する自由討論会 -簡易議事録-

開催日時:2020年2月26日 9:30~12:30

場所:稲武交流館支所棟2階多目的ホール

毎年開催されている名古屋大学と愛知県森林・林業技術センターの研究交流会を拡張し、名古屋大学の山本一清教授が企画した。講演、話題提供に続いて設けられた自由討論では、スマート農林業などのイノベーションによる地域活性化について、30年後の地域の姿を思い描いて、活発な議論が行われた。大学、行政、民間から、合わせて30名以上が参加した。

【講演】9:30~10:30

○「いま、イナカは一周回って面白い」古橋真人（一般財団法人古橋会 常務理事）

イナカを、課題先進地でもあり、都市生活で失われがちな人間性を取り戻せる、一周回ってモダンなフロンティアであると位置づけ、稲武地区での地域活性化の取り組みや、全国各地の先進事例を紹介。農林業のイノベーションについては、民間の経営活動による社会実装を重視し、プレイヤーとなる個人や企業をいかに惹きつけていくか、という論点を提示した。

【話題提供】10:30~12:00

○「ブランド米による山間地域の活性化」谷俊男（愛知県山間農業研究所稲作研究室 室長）

中山間地に適したブランド米「ミネアサヒ」について、食味を維持した上で、いもち病に強くなった新品種の開発を紹介。特Aランクの獲得を始めとする、高付加価値化戦略を提案した。

○「愛知県森林・林業技術センターにおけるこれからの試験研究について」竹内豊（愛知県森林・林業技術センター 技術開発部長）

SDGs から政府、林野庁、愛知県と、上流から戦略的整合の取れた研究テーマの選定を紹介。

○「スマート林業における基盤情報技術の展開」山本一清（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

最新の LiDAR やドローン画像の解析技術を紹介し、立木の位置や、材積の評価は現時点でかなりの精度を実現していることを紹介。今後の課題として、山林内の通信インフラの確保を挙げた。

【自由討論(司会:山本一清教授)】12:00~12:30

・人口減少社会に突入し、担い手の確保には、女性や若者に訴求できる魅力ある産業であることが必要であり、農林業の世界でもあらゆる面でのデジタルアップデートが期待されている。

・大学、行政、民間それぞれが、容易に想像できる課題に萎縮するのではなく、未来志向で取り組むことが期待される。

【出席者所属(順不同)】

名古屋大学、愛知県森林・林業技術センター、一般財団法人古橋会、愛知県山間農業研究所、愛知県農林基盤局林務部林務課、愛知県新城設楽農林水産事務所、愛知県豊田加茂農林水産事務所、豊田市産業部森林課、あいち豊田農業協同組合



「いま、イナカは一周回って面白い」 古橋真人



「ブランド米による山間地域の活性化」 谷俊男



「愛知県森林・林業技術センターにおけるこれからの試験研究について」 竹内豊



「スマート林業における基盤情報技術の展開」 山本一清